



令和7年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」受賞団体が決定しました

農林水産省は、農山漁村における「むらづくり」の優良事例を表彰し、その業績を広く紹介することを通じて、むらづくりの全国的な展開につなげていくため、農林水産祭の一部門として「豊かなむらづくり全国表彰事業」を実施しています。

令和7年度は東海農政局管内（岐阜県・愛知県・三重県）から「西山の棚田振興協議会」が農林水産大臣賞を、また「飛騨産直市そやな」が東海農政局長賞を受賞することが決定しました。

受賞団体の
詳細はこちら



農林水産大臣賞

西山の棚田振興協議会（三重県伊賀市）



西山の棚田



棚田の保全活動



小学校や企業と連携した棚田学校



社会福祉協議会へ棚田米を寄付

○景観作物の作付けにより棚田の不作付地が2.3ha減少。さらには、荒廃農地も2.5ha復元

○直近10年で11名が移住しており、地域に溶け込んだ移住者も、棚田の保全活動等で活躍

○定期的に開催する「ふれあい朝市」では、女性グループが芋の栽培から手がける手作りこんにゃく、スーパーでは手に入らない山菜等を販売しており、地元のみならず関西方面からも来客

○棚田米コシヒカリを近隣の介護老人福祉施設と年間売買契約を結んで販売するほか、伊賀市社会福祉協議会に約320kgを進呈

○棚田を児童への食農教育の場、企業のCSR活動の場として、棚田学校（田植え・稲刈り体験）等を開催し、地域外との継続的な交流を推進

東海農政局長賞

飛騨産直市そやな（岐阜県飛騨市）

○会員の思いをSNSで消費者に発信するほか、イベント開催や異業種間の協働による商品開発等により集客力を高めており、会員の生産意欲や所得の向上に寄与

○少量の農産物も受け入れることで、会員が新たな作物の栽培に挑戦しやすい環境を整備し、新規会員や新規就農者の増加、耕作放棄地の拡大抑制に貢献

○地元の給食センターへ野菜を定期的に納品するとともに、中学校での出前授業や、そやなでの小学生の職場体験の受け入れを通じて、飛騨市や飛騨野菜の魅力を直接伝え、こどもたちの地元産への誇りを醸成

○短時間勤務やシフト制を導入することで、多様な人材が働きやすい環境を整備。店長自身とスタッフの約8割を占める女性の視点やアイデアをいかした店舗運営



イベントの開催・SNSを活用したPR



イチゴ生産に挑戦した会員のハウス



「トマト店長」による中学校での出前授業



小学生の職場体験で飛騨の食について説明

お問合せ先 農村振興部 農村計画課 TEL 052-223-4629

つなぐ棚田遺産の棚田で稲刈りが行われました

農林水産省は、棚田地域振興法の趣旨に基づく棚田地域の振興に向けた取り組みの一環として、優良な棚田を「つなぐ棚田遺産」として認定しています。

東海3県では14地区（岐阜9地区、愛知2地区、三重3地区）が認定されています。

今般、棚田での稲刈りや脱穀作業に東海農政局から職員が参加しました。

つなぐ棚田遺産
の詳細はこちら



丸山千枚田の稲刈り（三重県熊野市）

9月13日、熊野市および（一財）熊野市ふるさと振興公社主催による「稲刈りの集い」が開催され、三重県内外から多くの棚田オーナーらが参加しました。当日は時折雨が降る中、東海農政局や三重県拠点からも職員が参加し、稲刈りから「はさ掛け（※）」までの作業を行いました。

また、9月19日には、東海農政局の若手職員有志で構成する「みどりtokai2025」メンバーも稲刈りを体験しました。

平成8年度から始まった棚田オーナー制度には、全国各地から毎年100組を超える申し込みがあり、田植えや稲刈りへの参加などを通じて、棚田地域振興が図られています。

（※）はさ掛け…刈り取った稲を「はさ」と呼ばれる木組みに掛けて、天日と風で自然乾燥させる伝統的な方法



丸山千枚田全景



9月13日の稲刈り



9月19日の稲刈り

六ノ里棚田の稲刈り（岐阜県郡上市）

9月27日、東海農政局の「みどりtokai2025」メンバーと岐阜県拠点の職員が、東海学院大学の学生やボランティアらとともに「六ノ里（ろくのり）棚田にじいろプロジェクト（※）」の稲刈りに参加し、地域の方と交流を深めました。

（※）六ノ里棚田にじいろプロジェクト…地元生産者やJA、NPO法人等が立ち上げたプロジェクトで、六ノ里の自然と里山の風景を守り育て将来に残していくため、田植え・稲刈り等の体験プロジェクトを提供



5種類の稲で「六ノ里棚田米」のデザインを描いた「イラスト田んぼ」



「イラスト田んぼ」の稲刈り

四谷の千枚田の脱穀作業（愛知県新城市）

10月9日、愛知県拠点の職員が、豊橋調理製菓専門学校の学生らとともに「四谷の千枚田」で脱穀作業を体験し、収穫の喜びを実感しました。



四谷の千枚田全景



脱穀作業

お問合せ先 企画調整室 TEL 052-223-4610

農村振興部 地域整備課 TEL 052-223-4639

みどり戦略関連

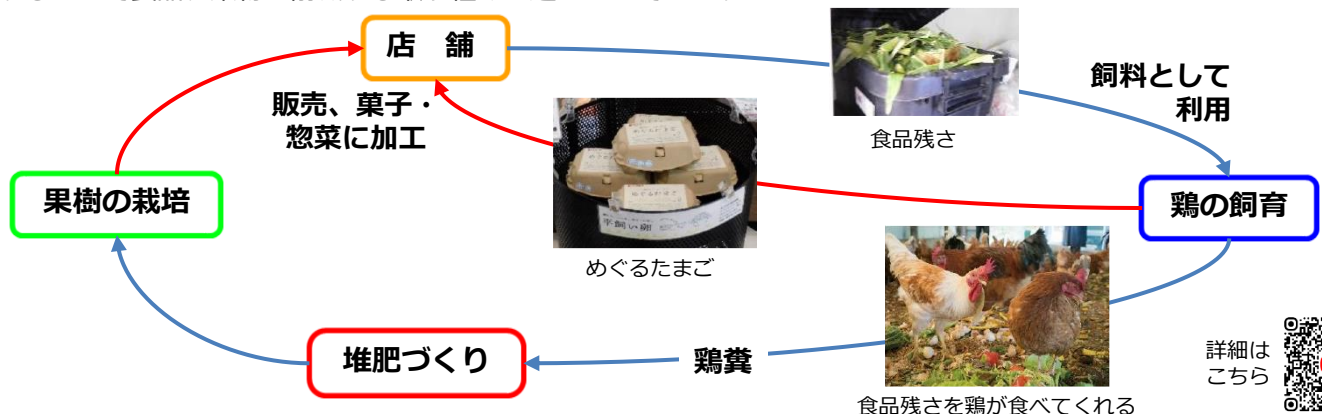
地域スーパーによる循環型農業の取り組み

農林水産省は、食品リサイクル法に基づき、売れ残りや食べ残し、または食品の製造過程等で発生する食品廃棄物について、発生の抑制や飼料・肥料として再生利用（リサイクル）する取り組みを促進しています。

今回は、地域スーパーによる食品残さのリサイクル（飼料・肥料化）の取り組みを紹介します。

株式会社渥美フーズ（愛知県田原市）は、スーパーやレストランで発生する食品残さを餌として鶏に与え、飼育した鶏の卵を販売するほか、菓子・総菜に加工しています。また、鶏糞と食品残さを堆肥化し耕作放棄地を活用してイチジクなどの果樹栽培を行うなど、鶏を軸にした循環型農業を実現しています。

さらに、クラフトビール工房で発生するビールかすや近隣の食品加工事業者で発生するおからや小豆の皮を牛の餌とすることで食品廃棄物を削減する取り組みが進められています。



詳細は
こちら



この活動が評価され、第13回「食品産業もったいない大賞」で農林水産省大臣官房長賞を受賞しました。

お問合せ先

経営・事業支援部 食品企業課

TEL 052-746-6430

「農林水産物・加工食品輸出促進セミナー」を開催しました

東海農政局は、9月29日、株式会社百五銀行（本社：津市）および（一財）食品分析開発センター SUNATEC（本部：三重県四日市市）との共催で「農林水産物・加工食品輸出促進セミナー」を開催しました。

セミナーでは、福井次長が農林水産省の輸出促進施策を紹介したほか、関係者から食品輸出に当たっての栄養成分の分析の必要性、日本からの食品輸出の多い香港市場の現状、他の産地の手本となる「フラッグシップ輸出産地」における取り組みについて説明しました。

当日は、東海地域の生産者や食品関連事業者、農林水産物・食品の輸出を推進する行政・団体だけでなく、オンライン参加を含め全国から450名以上が参加しました。

参加者からは、「輸出に取り組む事業者が利用できる補助金について教えてほしい」「海外向けの安定供給を担保するための準備や工夫について知りたい」「香港市場において今後注目すべき分野は何か」「容器包装詰低酸性食品に該当する場合の検査項目やその方法を教えてほしい」など、さまざまな質問があり、有意義なセミナーとなりました。



福井次長による講演

講演

- ◆農林水産省の輸出促進施策について
東海農政局 次長 福井逸人
- ◆経済の縮小が激しい産地の漁村、水産物の輸出拡大で地域経済の活性化に挑む
尾鶯物産株式会社 代表取締役社長 小野 博行さん
- ◆香港食品市場の今とこれから：市場動向と参入のポイント
香港貿易発展局大阪事務所 所長 リッキー・フォンさん
- ◆食品の輸出に関わる栄養成分表示と期限表示設定の検査について
一般財団法人食品分析開発センター SUNATEC
微生物検査室 室長 稲垣 暢哉さん

お問合せ先 経営・事業支援部 輸出促進課 TEL 052-223-4619

今年も「東海ジビエフェア in 愛・地球博記念公園（モリコロパーク）」を開催しました

東海農政局は、10月4日、野生鳥獣による農作物被害や捕獲した鳥獣のジビエ利用への理解を深めてもらうことを目的に「東海ジビエフェア in 愛・地球博記念公園（モリコロパーク）」を開催しました。

当日は、東海3県（岐阜・愛知・三重）から12のジビエ事業者が集結し、料理の販売や鹿の革を使った小物づくり体験などを行い、お子さま連れの家族など、公園を訪れた多くの人がおいしいジビエを味わいながら、鳥獣被害対策やジビエについて学びました。

ジビエを知って、食べて
農村地域を応援しよう！

東海ジビエフェア 2025

場所：愛・地球博記念公園（モリコロパーク）
三日月休憩所周辺
愛知県長久手市茨ヶ廻乙1533-1

日時：令和7年10月4日（土）
10:00～16:00（雨天決行）

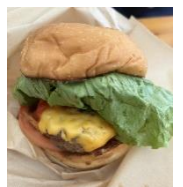
ジビエメニュー
皮革・角製品
小物づくり体験



ジビエカレー



鹿の革を使った小物



鹿肉ハンバーガー

お問合せ先 農村振興部 農村環境課 TEL 052-223-4631

～生産者、畜産に携わる関係者の皆さまへ～ 高病原性鳥インフルエンザ防疫対策の徹底をお願いします

10月22日、北海道の養鶏場において、今シーズン1例目の高病原性鳥インフルエンザが確認されました。昨シーズンは10月17日に1例目が発生し、本年2月1日までに14道県51事例が確認されました。

11月に入り、本格的な渡り鳥の飛来時期を迎え、全国的に高病原性鳥インフルエンザが侵入するリスクが極めて高い状況です。いま一度、厳重に警戒しましょう。

農場における発生予防対策

■人、物、車両の入出時対策

- ・衛生管理区域専用の衣服や靴の使用
- ・着用前後で交差のない動線、明確な境界の確保
- ・適切な車両消毒、手指消毒の実施
- ・家きん舎ごとの専用の靴の使用

■飼養衛生管理の強化

- ・養鶏集中地域や過去続発地域をあらかじめ指定（大臣指定地域）し、地域ぐるみでの野鳥対策や発生時の速やかな消毒対応等を実施
- ・再発農家への改善確認の強化
- ・大規模農家での分割管理の検討
- ・野生動物の侵入防止、誘引防止
- ・塵埃（じんあい）対策
等を飼養衛生管理基準に新たに位置付け

健康観察と異状の早期発見

- 家きん所有者は毎日の健康観察を入念に行い、異状を認めた場合は速やかに管轄の家畜保健衛生所に届け出。
家畜保健衛生所、産業動物獣医師など第三者の視点も活用して対策を向上させましょう！！



～消費者の皆さまへ～

鳥インフルエンザが発生した場合でも、感染が確認された鶏の肉や卵が市場に出回ることはありません。また、内閣府食品安全委員会は、我が国の現状において、鶏肉や鶏卵などを食べることにより、ヒトが鳥インフルエンザ（ウイルス）に感染する可能性はないとの見解を示しています。

<消費者相談窓口> 消費・安全部 消費生活課 TEL 052-223-4651

◆鳥インフルエンザへの対応については、こちら

<https://www.maff.go.jp/tokai/shohi/anzen/tori/index.html>

お問合せ先 消費・安全部 畜産安全管理課 TEL 052-223-4670



学習マンガ「ニャンズと学ぶみどり戦略」

農林水産省が策定した食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を分かりやすく説明するため、学習マンガ「ニャンズと学ぶみどり戦略」を作成しました。

親しみやすいキャラクターやイラストを使い、マンガ形式で「みどりの食料システム戦略」を説明しています。ぜひ、ご覧ください。



- 5 -

- 8 -

学習マンガはこちら

<https://www.maff.go.jp/tokai/seisan/kankyo/midori/shiryou.html>

お問合せ先 生産部 環境・技術課 TEL 052-746-1313



【編集後記】

趣味のマラソンに適した季節の到来です。東海地域ではこの時期から各地でマラソン大会が開催されます。今月は愛知県内の某大会に出場し完走を目指します。完走後の達成感が「やみつき」になり、続けています。

<編 集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4610

<ウェブサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>

東海農政局



「食・農びっくあっぷ」メールマガジンの登録はこちら